

コムギ(ムギ類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用 機構 分類 コード	人 畜 毒 性	使用 時期 (日数)	使用 回数	赤 枯 病	赤 さ び 病	うどん こ 病	黄 斑 病	条 斑 病	眼 紋 病	黒 点 病	黒 変 病	葉 枯 病	ふ 枯 病	斑 葉 病	な ま ぐ さ 黒 穂 病	雪 腐 小 粒 菌 核 病	ア ブ ラ ム シ 類	ヒ メ ト ビ ウ ン カ	ム ギ ア カ タ マ バ エ	ム ギ キ モ グ リ バ エ	ア ワ ヨ ト ウ
トップジンM水㊟	1		14	*d	◎		◎			◎												
トップジンM粉DL㊟	1		14	*d	◎																	
ベンレート水㊟	1		7	2	◎		◎															
アフエットFL	7		14	3		◎																
ミラビスFL	7		7	2	◎	◎	◎															
アミスター20FL	11		7	3		◎	◎	◎														
ストロビーFL	11		14	3	◎	◎	◎															
ファンタジスタFL	11		14	3	◎																	
シルバキュアFL	3		7	2	◎	◎	◎			◎	◎											
チルト乳25	3		3	3	◎	◎	◎			◎												
トリフミン乳	3		3	3	◎		◎															
プロラインFL	3		7	2	◎	◎	◎			◎	◎	◎										
				*b	1												◎					
キノンドー水40	M1			*a	1										◎	◎						
オーソサイド水80	M4		14	4	◎					◎	◎	◎	◎									
ベフラン液25	M7	劇	*a	1				◎					◎		◎							
			14	*c	◎		◎															
ホーマイ水	1・ M3			*a	1										◎	◎						
キンセット水80	M1・ M1		*a	1				◎														
			60	5					◎													
スミトップM粉㊟	1・ 1B		14	1	◎		◎											◎	◎	◎		
スミチオン乳	1B		7	1														◎			◎	◎
トレボン乳	3A		14	2														◎	◎			
ペイオフME液	3A	劇	7	2														◎				
アドマイヤー顆水	4A	劇	14	2														◎				
ビレスコ顆水	4C		7	2														◎				
アブロード水	16		7	3															幼			
ウララDF	29		7	2														◎				

㊟：チオファネートメチル含有剤 ㊟：ベノミル含有剤 ㊟を使用した場合には同じ作での㊟は使用しないこと。その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く、詳細はP. 856 参照）。

*a: 播種前 *b: 根雪前

*c: 3回以内(出穂期以降は1回以内)

*d: 3回以内(出穂期以降は2回以内)

幼: 幼虫

コムギ(ムギ類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
赤かび病	開花始め～ 開花最盛期	・ 次の薬剤のいずれかを散布する。 トリフミン乳剤● 1000倍 トップジンM水和剤● 1000～1500倍	●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
うどんこ病	4～5月	・ 発生が認められたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル● 2000～3000倍 トップジンM水和剤● 1000～2000倍 トリフミン乳剤● 1000倍	●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。
裸黒穂病 ・ なまぐさ 黒穂病	播種前	・ 次の薬剤で種子消毒を行う。 ベンレートT水和剤20＊ 20倍 10～20分間浸漬 200倍 6～24時間浸漬 乾燥種子重量の0.5% (粉衣)	＊ムギ類での登録
	発病時	・ 病穂は早期に抜きとり処分する。	
から黒穂病	播種前	1. 品種の選択に注意する。 2. 早まきをさける。 3. 被害の多い圃場では連作をさける。	
	発病時	・ 被害株は発見次第黒粉が飛散しないよう抜きとり処分する。	
アブラムシ類	出穂前後 (4～6月)	・ 発生の多いときには次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤＊ 2000倍 ウララDF 4000倍 スミチオン乳剤 1000倍	＊ムギ類での登録